

北海道浮魚ニュース

平成23（2011）年度11号

2011年8月1日

北海道立総合研究機構 水産研究本部

釧路水産試験場

ホームページ：http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm

◎平成23年度北西太平洋サンマ長期漁海況予報発表される

7月29日に予報文が発表されましたのでお知らせします。

なお、下記のホームページに、より詳細な予報文が掲載されていますので、ぜひご覧ください。

水産庁 URL：[//www.jfa.maff.go.jp/j/press/](http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/)

【漁況予報】

予報期間：2011年8月～12月

対象海域：北西太平洋（道東沖から三陸沖）

対象漁業：サンマ棒受網

魚 体：大きさは肉体長（≒体長）で表示し、便宜的に大型魚（29cm以上）、中型魚（24～29cm未満）および小型魚（20～24cm未満）と区分した。

① 来遊量

来遊量は前年を上回る。

② 魚体

大型魚主体となるが、漁期はじめと終わりは中・小型魚が混じる。

③ 漁期・漁場

大型船出漁後の漁場は択捉島南沖合に形成される。9月になると道東への来遊量は増加する。三陸沖への南下時期は平年よりやや遅れ、漁場形成は10月中旬になる。

《解説》

① 来遊量

東北区水産研究所が毎年行っている漁期前調査結果から、6月～7月には日本沿岸でのサンマの分布は少なく、東経155° 以東で多いことが明らかとなっている。また、サンマ棒受網船のCPUEは9月～10月にピークとなることから6月～7月の調査時に沖合に分布していたサンマ群が、漁期になると道東～三陸沖へ来遊し、盛漁期を迎えるものと考えられている。従って、来遊量は、漁期前に漁場外を含めた海域で行われた各調査結果をもとに予測している。

東北区水産研究所の中層トロールによる漁獲調査から、推定資源量は253万トン（暫定値）と昨年の135万トンを上回り、尾数ベースでも286億尾で昨年（138億尾）を上回った。また、この調査結果では、サンマは例年（2008年以前）とは異なり、東経163° 以東で主に採集され、東経160° 以西の日本沿岸で非常に少なかった。釧路水産試験場の北辰丸による流し網調査では、流し網1反あたりの漁獲尾数は9.0尾であり、昨年（7.6尾）を上回った。

また、開発調査センターが行ったサンマ棒受網試験操業結果でも、調査開始後1ヵ月間の操業船1隻当たりの漁獲量は昨年の1.2倍であり、6月における漁場は昨年よりも西側に形成されている。

今年は推定資源量が昨年を上回ることや、分布の東偏も昨年ほど極端でないことから、来遊量は昨年を上回ると判断した。今年も分布の東偏によって、漁期はじめの漁模様は低調になると考えられるが、昨年に比べ来遊量が上向く時期は早く、9月上旬～中旬には漁場への来遊量が増加すると考えられる。

② 魚体

例年6月～7月に東北区水産研究所が実施している漁期前調査において、調査海域全体での1歳魚の割合が高い年は、8月以降のサンマ棒受網漁獲物の大型魚の割合も高くなる。

東北区水産研究所の漁期前調査結果から、調査海域全域における1歳魚の割合は50%で、昨年（73%）を下回った。しかし、今年の1歳魚の推定資源尾数は141億尾と、昨年の101億尾の140%であり、尾数は多かった。また、漁期前調査では東経160° 以西では大型魚が少数漁獲されているだけであったが、それよりも東側では調査海域別の1歳魚の尾数割合に大きな差はなく、いず

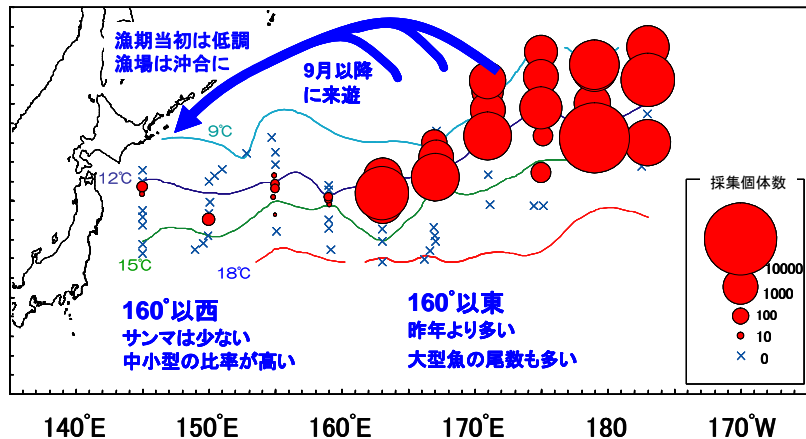
れの海域でも1歳魚はほぼ半数を占めた。

釧路水産試験場北辰丸による流し網調査結果においても、東経157° 30' 以東では大型魚のみであったのに対し、東経155° 30' 以西では大型魚の割合が非常に低く（1%）、ほとんどが27cm未満の0歳魚であった。開発調査センターにより行われたサンマ棒受網試験操業結果では、1歳魚が主体に漁獲されている。また、探索時には調査漁獲の対象とはならなかったものの0歳魚の分布が確認されている。

以上の結果から、漁期当初は西側の海域でサンマの分布量が少なく0歳魚も漁獲対象となるので、大型魚とともに中・小型魚も漁獲される。魚群が東経160° 以東の海域から加入するのに伴い大型魚の比率は増加して、漁獲物の対象は大型魚が主体となる。しかし、漁期後半には例年通り中・小型魚が遅れて南下して漁場に参加するので、再び中・小型魚の割合が増加すると考えられる。

③ 漁期・漁場

近年（過去5年間）における100トン以上のサンマ棒受網船解禁直後である8月下旬の漁場での平均表面水温は15℃であった。7月下旬現在、道東沖では14℃～15℃の表面水温帯が分布しており、例年と比べて高めで推移している。同海域では例年8月下旬にかけて水温が上昇するが、気象庁の海面水温・海流1か月予報（2011年7月21日～8月20日まで）に



によると8月中旬までは道東海域における表面水温はやや高めになると予想されている。また、親潮第2分枝の張り出しはやや南偏しており、沖合の表面水温が低めであることから、東から回遊してきた魚群が第2分枝に沿って南下しやすい状況になる。

以上のことから、100トン以上のサンマ棒受網船解禁（8月15日）後の漁場は、昨年同様択捉島南沖から親潮第2分枝に沿った東の海域に形成される。

【 海況予報 】

予測期間：2011年8月～9月

対象海域：北西太平洋

- ・親潮第1分枝の張り出しはかなり北偏、第2分枝の張り出しはやや南偏することから、道東沿岸の水温は高め、沖合は低めとなる。
- ・三陸沖は暖水塊の影響で水温が高めに推移する。

《今後の見通し（8月～9月）》

- ①近海の黒潮の北限位置はかなり南偏～極めて南偏（北緯35° 20' 以南）で推移する。
- ②近海の黒潮系暖水の北限位置は、平年並み（北緯38° 40' ～40° ）で推移する。
- ③下北半島沖の暖水塊は停滞する。
- ④親潮第1分枝の張り出しはかなり北偏（北緯41° 40' ～42° 50' ）で推移し、三陸近海に冷水域が形成される。
- ⑤親潮第2分枝の張り出しはやや南偏（北緯38° 30' ～39° ）で推移する
- ⑥津軽暖流の下北半島東方への張り出しは平年並み～やや弱勢（東経142° 30' ～143° 10' ）で推移する。

なお、海況の今後の見通しについては、下記のホームページを参照下さい。

東北水産研究所（東北海区海況予報）

<http://tnfri.fra.affrc.go.jp/kaiyo/kaiyoubu/predict/index-j.html>

（文責：釧路水産試験場調査研究部、TEL：0154-23-6222、FAX：0154-23-6225）